第三百二十八話　「語学敗戦」は在りえるか？

偶には、少々毛色の違う話をするのも戦争理解の一助になるであろう。戦時中英語は敵性語として禁止されていた、海軍においては英語が重視され戦時中も教育されていたという程度の理解が一般的である。陸軍は独語一辺倒だったとも理解されている。「英語と日本軍」なる新書が NHK 出版から２０１６年に発刊された。著者は、江利川春雄氏である。

偶々、市の図書館で新着本として紹介されていたので手に取った次第である。本話で、その中で参考になる事項を幾つか紹介すると共に気になった事項を述べたい。

１　戦争における語学の重要性認識に関する日米の差

軍事における外国語の位置付けをどう考えるか？友好・同盟国の言語を十分に運用しうることは勿論重要であるが、敵国語を理解しそれを軍事目的に活用することも同様に重要である。日本、特に陸軍では英語を除く欧米語を重視し、大東亜戦争相手に関する語学を軽視していた。米国は、」日本語要員養成を計画的・組織的に行い、その成果が十二分に発揮されたことは史実が証明している。

一方、日本軍では、英語教育を縮減し、語学将校の育成を疎かにし、現地語の必要性が高まってもそれに十分に対応できなかった。

日米の戦略性の差は歴然である。

２　結構先進的教育をも行った軍の英語教育

日本の語学教育は今でも読解、訳文、文法が主体であり、聞き取れず話せないという弱点があるのは周知の事実だ。オーラルメソッド方式による先駆的な英語教育を行った教育者が軍学校にもいた。

３　「世紀の誤訳」ポツダム宣言「黙殺」を「拒否」と英訳報道した同盟通信

余りにも有名な話であり、細部は割愛する。

４　「外国語は、海軍将校として大切なる学術なり」と喝破していた井上成美海兵校長

流石は学者軍人だ。

５　「独留学組が出世した陸軍」とされるが、・・

６　「英語を公用語とする。」マッカーサーの布告案

占領期間中のみであるとしても公用語とされていたならばと空恐ろしくなる。

７　戦後復興に寄与したエリート集団　敗戦後の進路特徴

陸士６０期生：四分の一が官公庁に就職、海兵７７期生：大学・高専への進学率８２％　大半が東大・京大（S２１以降軍学校出身者の入学割合は一割以下とされた。）

８　語学将校は冷遇された？

優れた語学将校も存在したが、軍特に陸軍は彼（等）を活かしえなかった。

今の日本の政経済界・官公庁・自衛隊はどうなのだろうか？

９　語学選考が当該国認識・理解に及ぼす影響

語学教育は文化洗脳でもある。語学を通じて当該国に対して親近感や共感を持つものだ。国民や軍学校で何語を学ばせるかは重要な戦略判断を要するのだ。

１０　確かに日本軍は大東亜共栄圏参加国語は学なかったし、養成もしなかった。

１１　日本の戦略性の欠如は寂しくなる。幕末から明治期にかけてあれほど進取に富み語学を学び日本を発展させた日本人は何処に行ってしまったのだろうか？日本軍の近代化に語学が果たした役割は大きい。勿論語学習得が目的ではなく手段であることに変わりはない。

＊　「語学敗戦」との新語が紹介されていたが、そう言えなくもないか？

＊　日本の語学教育の現状はどうだろうか？旧態依然では？今は改善された？

（了）